

蔵の考察 蔵と水の里 喜多方



なぜ、蔵の街・ラーメンの街として 喜多方が有名になったの？

観光地になるまでの喜多方は、古くから地場産業であった味噌・醤油などで使用されていた蔵が、時代の流れの中で地場産業と供にその役割を終え、市街地の中に取り残されてしまいました。また、市街地では車社会の到来による商業圏の変化に対応を迫られていた商店街からの要望で市街地にある蔵を取り壊しての駐車場・新しい商店街を形成しようとする商店街再開発計画の必要性が叫ばれていました。一方農村部においても、農業基盤整備事業に伴う農作業の機械化・効率化の為や住民の住宅の改築指向などにより、作業蔵・道具蔵の改造・取り壊しが進められていました。そんな昭和40年代後半、どんどん取り壊されていく運命にあった「蔵」に一抹の寂しさを感じ、写真をとおして喜多方の文化遺産を後世に残そうと、蔵を撮り続けていた地元の写真家がありました。新仲町で写真荘を営んでいた金田実氏（故人）で、昭和47年11月に市内で写真展をしたのを皮切りに、昭和48年には会津若松市で、昭和49年には、東京の三菱オートガーデンと写真展を開催しました。金田氏の蔵の写真からは、喜多方という田舎町の市民の生活の中に深く息づいた蔵の姿が感じられその事が見る人一人一人に大きな感動を与える事になりました。

更に、昭和50年7月には、NHK総合テレビ「新日本紀行」で、全国に喜多方の蔵が紹介されたことにより、変に観光地化されていない素朴さの残る喜多方市にカンバスやカメラをさげた観光客の姿が見られるようになりました。

全国的に有名になった喜多方ラーメンも、蔵を見にきた観光客が、朝食や昼食・夕食に食べたラーメンが店の人の素朴な人情・飯豊山の伏流水の「おいしい水」と相まってロコミで紹介されたのが始まりでした。その後、喜多方が「ラーメンの街」としてマスコミに取り上げられることにより一部の観光施設やラーメン屋さんのみが街の顔として注目されるようになりました。しかし、ほんとうの蔵の街 喜多方の良さは、観光化された蔵の陰にある「住人の生活の場である蔵の姿」にあります。また、喜多方ラーメンの原点は行列のできる有名店の陰に隠れてしまった「本当の意味での昔からの手作りのラーメン屋さん」に、あります。そんな気持ちで喜多方を観光すれば、観光化される前の真の蔵の街 喜多方・喜多方の人情・喜多方の手作りの味に出会えると思います。会津西北部の有志で運営するいい逸品館（西四ツ谷市営無料駐車場から徒歩2分）では、自分たちが選んだ隠れた喜多方の観光情報・飲食情報・お土産情報などの地域情報を紹介していますので、気軽にご意見をお聞かせ下さい。そして、喜多方の事やラーメンの印象など率直に教えてください。今後の情報発信の参考にしたいと思います。

喜多方の蔵には、どんなのがあるの？

喜多方市内には、2600棟（4世帯に1棟の割合）を越える蔵が点在しています。粗壁・白亜・黒漆喰・レンガ造りの蔵など様々です。また、用途も多岐にわたり、酒蔵・漆器蔵・味噌蔵・店蔵・座敷蔵などに使用されています。変わった蔵としては、防火壁を兼ねた塀蔵・かわや蔵（トイレ）などがあり、寺町には、蔵造りのお寺「安勝寺」があります。また郊外の農村蔵には、幻の職人 壁金がこてで描いた「こて絵」のある蔵も残っています。喜多方プラザ近くの蔵の里には、移築された多くの蔵や喜多方の歴史がわかる資料館がありますのでぜひ訪ねて下さい。

なぜ、喜多方には蔵が多いの？

- 昔から、喜多方には良質な地下水・米・麦・大豆の産出に恵まれ酒・味噌・醤油・油などの醸造業が栄えその保存に蔵が必要だった。また、漆器業・蚕を飼う製絹業など地場産業に利用された。
- 明治13年、170戸約300棟を焼失する大火の際、多くの土蔵が残り土蔵の耐久性が実証された。
- 明治の中頃、レンガ工場ができた為レンガ積みの技術導入に熱心な人がいた。尚、レンガの歴史等に興味のある方は、寺町の田中レンガ記念館を訪れると良いと思います。
- 棟梁・建具・左官・塗工の分野に創意工夫に富んだ名工がおり、斬新卓越な職人がいた。
- 大地震・大水・台風などの天災が比較的少なく、また戦争の災禍もまぬがれた。
- 「男40にして蔵の一つも建てられないようでは男でない」とも言われ、蔵を建てるのが生涯の夢とされた。
- 明治時代初期、それまで藩の圧力によって押さえつけられていた商人（旦那衆）の欲求が開放され、金に糸目をつけぬ豪華な蔵造りの建物を建てた。

【お役立ちホームページ】

観光情報なら <http://kitakata.info/>

お土産品なら <http://kitakata.info/shop/>

HP情報なら <http://kitakata.info/club/>



喜多方市で、創業80年



<http://kitakata.info/mise/>